



SUMS

Suzuka University
of Medical Science

鈴鹿医療科学大学
〒510-0293 鈴鹿市岸岡町1001番地 1
TEL. 059-383-8991
<https://www.suzuka-u.ac.jp/>

No.
127

2024.7.31

SUMS News



学友会

令和6年度学友会が始動しました！

【学友会 会長】



令和6年度学友会会長を務めることになりました、保健衛生学部 医療栄養学科3年の倉田 華です。

昨年度からは、新型コロナウイルスの制限が解除され、行事参加時の抗原検査や人数制限がなくなり、新型コロナウイルス流行以前のように行事を行うことができるようになってきました。今年度は、さらに新しい企画を行うなど、より積極的に活動していきたいと考えています。

学友会では、大学の勉強の合間に一息ついたり、普段関わることのない他学科、他学年と交流ができたリ、在学生の皆さんの学生生活がより充実したものになるような企画を考えています。11月に開催予定の大学祭「碧鈴祭」については、昨年に引き続き、白子キャンパスでの開催を計画しています。学友会行事の際には、皆さんの積極的な参加をぜひお待ちしております。1年間、よろしくお願いいたします。

【クラブ・サークル運営委員会 委員長】



クラブ・サークル運営委員会の委員長を務めさせていただくことになりました、保健衛生学部 医療栄養学科2年の濱田栞恋(まる工房 部長)です。

1年生の皆さんは興味のあるクラブ・サークルは見つきましたか？クラブやサークルは、新しい仲間と出会い、大学生活をより豊かにしてくれる良い機会だと思いますので、迷っている方は是非入部をご検討ください。また本学のホームページやInstagramなどで各団体の活動が分かりますので、そちらも是非チェックしてみてください。

皆さんが課外活動を通じて学年や学科の垣根を越え、たくさん交流の機会が増えるよう、また、クラブ・サークルに所属する学生一人ひとりが安心し、充実した活動が行えるよう尽力していきたいと思っています。まだまだ未熟で至らない点もありますが、精一杯頑張りますので1年間よろしくお願いいたします。

<学生課>

薬学科 新入生オンライン歓迎・交流会 2024

薬学部 薬学科 准教授 藤原 朋也

4月4日(木)に薬学科新入生オンライン歓迎・交流会を開催しました。本会は、新入生がこれからの大学生活に対して抱える不安を解消することや、遠隔授業に慣れることを目的として、オンライン形式で実施しています。令和6年度は2～4年生の上級生23名と教員4名の運営で、新入生のほぼ全員が参加しました。

Webキャンパスツアーでは、ガイド役の上級生が白子キャンパスの施設や、空き時間のキャンパス内施設の利用方法などについて、硬軟織り交ぜた内容で紹介してくれました。また、上級生1名あたり新入生5～6名のグループに分かれて交流した際には、ご当地クイズや学校生活に関するQ&Aなどを実施し、教員では伝えられそうにない有用な情報を、上級生が新入生に非常に上手く伝えてくれました。予想以上に話が盛り上がるグループもあったため、予定時間を少しオーバーしてしまいましたが、参加者一同、楽しい時間を過ごすことができました。

参加した新入生からは、「不安が無くなって大学生活が楽しみになりました」、「先輩達からアドバイスや話を直接聞くことができとても参考になりました」、「勉強がとても大変と聞いたので頑張りたい」などの非常に前向きなコメントがありました。

本会が新入生の皆さんにとって、大学生活をスムーズに進めるための一助になったものと思います。

医療栄養学科 新入生歓迎会

保健衛生学部 医療栄養学科 助手一同

6月7日(金)千代崎キャンパス学生食堂(サピオ1)にて、医療栄養学科の新入生歓迎会を開催しました。歓迎会にしては少し遅くなってしまいましたが、1年生26名、2年生8名、3年生10名、4年生5名、教員・院生14名の合計63名、多くの学生が参加してくれました。主役である1年生も半数以上参加しており、たくさんの笑顔を見ることができ嬉しかったです。

この会で一番の盛り上がりを見せたのがビンゴ大会！1番の目玉商品はテーマパークのペアチケットでした。「鶏肉の部位を当てるパズル」という医療栄養学科らしい景品も用意されていました。ビンゴになった上級生からは、1年生へ学生生活の過ごし方などのアドバイスをもらい、1年生は自己紹介をしてもらいました。全員に景品はなかったものの、参加者全員がワクワクしながら楽しい時間となりました。



3年生の代表が一生懸命に準備をしてくれたおかげで、学年の垣根を越えた交流会を行うことができました。レムシャイドのオードブルとビンゴ大会で大いに盛り上がった今年の新入生歓迎会は、1年生からも楽しかったと声があり、これからも学科での交流会の場を増やしていきたいと考えています。今回の歓迎会を機に学生生活がより豊かなものになると幸いです。

「SUMS Wake Up Morning (100円朝食)」を実施

6月19日(水)～7月12日(金)の平日朝、千代崎キャンパス学生食堂(サピオ1)・白子キャンパス地下食堂(サピオ3)にて、「SUMS Wake Up Morning (100円朝食)」を試験的に実施しました。本学在学生(学部生・大学院生)を対象に、100円で健康的な朝食を提供するものです。朝食をしっかりとることで身体と頭をWake Up(目覚めさせ)、健康的な食生活に関心を持ってもらうのと同時に、食事の提供を通して生活の質向上と物価高騰による経済的負担の軽減を目的として実施しました。週替わりの3種類のスープは、本学ならではの薬膳を取り入れて作ったこだわりの一品です。学生からは「朝から栄養を十分に摂れて、味も美味しく、友達とモーニングもできて、良いこと尽くしです」「100円でこれだけのご飯が食べられるのはとても嬉しいです」などの感想がありました。なお、今後継続するか否かについては、利用者数などを考慮し、検討することとしています。



- ・週替わりの元気いっぱいスープ(3種類)野菜たっぷりスープ/とうもろこしとジャガイモの豆乳スープ/本しめじと大豆のスープ
- ・厚切りトースト
- ・ゆで卵

<学生課>

国際交流のご報告

香港の獅子会蔣翠椋中学との国際交流

7月1日(月)に、香港の獅子会蔣翠椋中学(Lions Clubs International Tseung Chui King College)から24名(教員2名・生徒22名)の研修訪問を、国際交流の一環として受け入れました。

獅子会蔣翠椋中学は中高一貫校であり今回は高校1・2年生に該当する生徒が日本の医療・福祉関係の現場見学のひとつとして本学へ訪問されました。当日は白子キャンパスにおいて薬学科の授業見学、看護学科の実習室見学、救急救命学科の救急車見学、学食体験などをしていただきました。学食では本学の学生とも自発的に懇談し、学生同士で国際交流をする場面も見られました。

2時間半という短い時間でしたが、日本の医療・福祉系総合大学の雰囲気を感じていただけたかと思います。また、本学の学生にとっても貴重な国際交流になったのではと感じました。

〈国際交流センター〉



臨床工学科 ハワイ研修

医用工学部長 伊原 正

3月10日(日)～15日(金)臨床工学科の学生5名(1年生3名・3年生2名)を引率して、ハワイの医療施設の見学研修を行いました。内容は、①日本人救急救命室(ER)勤務看護師によるコロナ禍でのER業務の説明、②透析クリニック(US Renal Care)における透析患者のいる透析室、透析液を作る機械室の見学、質疑応答、③Castle Medical Center(200床の中規模病院)における集中治療室(ICU)の見学、④Hawaii Pacific University 医用生体工学科の見学、⑤ICU看護師による人工呼吸器の基本の講義・実習、⑥St. Luke Clinic(日本人旅行者のためのクリニック)の日本人院長先生によるアメリカの医療制度、医療の実際についての講義でした。



特に印象に残ったのは、ハワイの透析施設で管理栄養士の方から伺ったお話で、日本の透析施設では塩分摂取量を1日6g以内とされているものが、アメリカでは2g以内とのことでした。学生も人工呼吸器に関連した気管挿管の練習に熱心に取り組んでいました。また、「透析施設の医療スタッフの仕事に対するモチベーションはどのようなものか」、「体重の非常に大きな患者にはどのように対応しているか」など積極的に質問をしていました。臨床工学科では初めての海外研修でしたが、大変有意義な研修でした。

看護学部 ハワイ研修の報告会を終えて

看護学部 看護学科4年 氏平 梨乃

看護学部主催のハワイ研修が3月9日(土)～14日(木)の日程で行われました。看護学部生14名と引率教員2名の計16名が研修に参加しました。現地で活躍する日本人ナースプラクティショナー(NP)の講義や、ホノルル近郊にある病院・ケア施設を見学し、ハワイでの医療体制や日本との違いなど多くのことを学びました。

そして4月30日(火)に看護学部においてハワイ研修報告会が開催され、多くの学生や教職員の方々にご参加いただきました。報告会では、NPの役割、多文化対応看護、終末期ケアについて、また、ハワイ大学シミュレーションセンターや米国透析センター、キャスルメディカルセンター等での視察を通しての学びを発表しました。私たちが実際にハワイで感じたことや楽しかったことも含め、自分たちの言葉で報告できたので、皆さんに海外研修の魅力について伝えられたのではないかと思います。私たちにとっても研修での学びを振り返るよい機会となりました。

研修を通して日本とは異なる看護の視点や医療制度、ケアシステムについて学ぶことができ、国際看護への関心がさらに深まりました。6日間という短い期間でしたが、自由時間には現地の人々と交流し、ハワイの文化にも触れることができ、今回思い切って参加してとても良かったと思います。国際看護、海外研修に興味がある方はぜひ参加してみてください。このような貴重な経験をさせていただき、研修を企画し、現地でも細やかにサポートしていただいた先生方に感謝いたします。



〈看護学部 国際交流委員会〉

鈴鹿市消防団機能別団員(学生団員)発足式が行われました

保健衛生学部 救急救命学科長 丸山 一男

4月27日(土)鈴鹿市消防本部にて、鈴鹿市消防団機能別団員(学生団員)発足式が行われ、救急救命学科の学生25名が辞令交付を受けました。

鈴鹿市消防団機能別団員(学生団員)は学官連携の取り組みを機に、4月1日(月)に結成され、消防職員や現役・OBの消防団員からの指導や訓練を受けながら、学校で学んだ知識や技能も活用して、地域防災への貢献を目指しています。



具体的には、市民向けの応急手当講習や、避難所での物資配布、地域で開催される防災訓練や救急救命講習の支援などを当面の活動としています。学科を問わず、参加可能です。特に、本学救急救命学科の学生は、将来、救急救命士として消防機関や病院での活躍が期待されていますが、常勤消防職員になる前から学生団員としての経験を積み、地域の自助・共助・公助の推進に役立つことを願っております。

三重県ドクターヘリの見学を終えて～これからの救急救命士について～

保健衛生学部 救急救命学科 講師 富田 泰成

6月13日(木)に、三重大学医学部附属病院にて運航中の、三重県ドクターヘリの見学に救急救命学科の5名が参加しました。参加した学生は高度な救命医療を目の当たりにすることができ、実りの大きい体験となりました。

また、三重大学医学部附属病院ではハイブリッドワークステーションという救急救命士を中心としたプログラムが推進されており、近隣市の消防本部から派遣された救急救命士が救急救命のスペシャリスト教育と救急医のタスクシフトを目的とした研修に参加されていました。具体的には、救急救命士がドクターヘリに同乗する研修や地域救急医療支援型ドクターカーの運行に参画するなど、地域の救急医療を支える高度で実践的な研修を行って見えました。



これらの取り組みから、三重県内での救急救命士への期待の高まりを実感することができ、ハイブリッドワークステーションの皆さまからは救急救命士の職域の拡大や処置の拡大に対する期待の声も寄せられました。

本学の救急救命学科からは、いよいよ令和8年に第1期の救急救命士が誕生します。本学出身の救急救命士たちが県内外で幅広く活躍できるように、引き続き三重大学医学部附属病院をはじめ県内外の救急病院や消防機関と連携を深め、本物を見せる教育、本物を体験できる教育に力を入れて救急救命士の可能性を高めていきたいと思えます。

石田寅夫名誉教授による大学院セミナーを開催

医療科学研究科FD推進委員長 若林 成知

2009年9月からスタートした大学院セミナーは、今年度から大学院医療科学研究科の兼担教員相互の研究情報交換の機会であるばかりでなく、同研究科博士後期課程学生の選択科目(医療科学特論)としても活用されるようになりました。第138回を迎えた今回、4月18日(木)に本学東洋医学研究所元所長の石田寅夫先生による大学院セミナーを開催しました。「ノーベル賞受賞者から学ぶ研究の仕方」という演題で、大学院生にとって一番大切な研究の仕方についてノーベル賞受賞者を事例にして、分かりやすくご講演頂きました。

石田先生は、多くのノーベル賞受賞者と親交があり、「あなたも狙え！ノーベル賞－科学者99人の受賞物語－」など関連図書も多数執筆なされています。まずは幸運をつかむ能力こそ、ノーベル賞受賞者が他の人と根本的に異なる能力であることを示されました。2012年12月には、ノーベル財団主催のDNA二重らせん構造モデルノーベル賞受賞50周年記念遺伝子会議に招待され、山中伸弥教授の生理学医学賞を始め各賞受賞記念講演を拝聴されたこと、そして運をつかむ能力があまりない私達でも受賞者の研究手法を使えばノーベル賞受賞も夢ではない7つの法則について紹介されました。興味深いものばかりでしたが、その一つ「思いがけない結果が出れば、何かの始まりと思い、それを追求する」は白川英樹氏、下村脩氏、梶田隆章氏ら日本人受賞者にみられる身近なものでした。

さらに、「ノーベル賞は接触感染するので、受賞者の研究室で弟子になるのがいいが、それはなかなかできない。そこで、簡易的な方法としてゴードン・リサーチ・コンファレンスにもぐりこみ、ノーベル賞受賞者とできるだけ近い位置で記念写真を撮って貰う事です。感染者は後日ノーベル賞を受賞します」とユーモアを交えて語られました。当日は大勢の参加を得て、活発な質疑応答が行われました。大学院生はもとより、教職員にとっても刺激的で有益なご講演でした。



大学院生がシンポジウムにて講演賞を受賞

副学長(大学院・研究担当) 鈴木 宏治

6月7日(金)～8日(土)に岡山大学で開催された「第33回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(SRM2024)」において、大学院薬学研究科の山田拓磨さんが「演題：カチオン性白金(II)二核錯体のDNA液滴形成能と核酸結合様式に関する研究」について口頭発表を行い、講演賞を受賞しました。

細胞内には数多くの生体分子が存在しますが、生命活動の維持に重要な分子間反応は互いに干渉することなく適切なタイミングで進行しています。それらの分子間反応の場としては、生体分子の液-液相分離^{*}により生じる「液滴」が知られています。この生体分子による液滴形成は生命活動の維持に不可欠であり、液滴を人工的に引き起こす化合物の探索は、生命の起源に関する研究や人工細胞の作成を試みる研究分野において、非常に重要であると考えられています。

最近、薬学科の米田誠治教授らによって分子設計されたアゾラト架橋白金二核錯体は、高いDNA液滴形成能を有することが明らかになり、その詳細な分子機序が解析されてきました。今回のシンポジウムでは、白金錯体と様々な配列のDNAによる液滴形成、白金錯体と核酸モノマーとの結合様式などの研究成果が発表され、高い評価をいただきました。

本研究には共同研究者として、薬学科の田代竜准教授、植村雅子助教、米田誠治教授(指導教員)が参画しました。

※液-液相分離の例としては、サラダドレッシングが水相と油相に分かれる状態がありますが、細胞内で見られる生体分子の液-液相分離では、濃度の異なる2種類の「水溶液」が混じり合わずに2相に分離する現象を指します。



鍼灸サイエンス学科4年生が研究発表

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授 浦田 繁

5月24日(金)～26日(日)仙台市にて、第73回全日本鍼灸学会学術大会が開催され、鍼灸サイエンス学科4年生の荒瀬巧麻さんが研究発表を行いました。

テーマは、「肩こり・腰痛患者数と気象データとの相関」でした。鍼灸治療センターの新規患者5年間分を集計し、上位2症状である「肩こり・頸部痛」と「腰痛」について解析を行いました。さらに気象状況と来院患者の関係を調べ、「最小湿度」や「1時間降水量」と「来院患者数」との間に関連があることを発見しました。これらをまとめ、当学会にてポスター発表を行いました。気象との関連に興味のある参加者から質問を受け、研究結果や知りうる知識をもとに議論しました。このような活動は、研究結果を公表する意義とともに、様々な方と議論することで知識を深め知己を得る貴重な機会になることでしょう。

また当日は、鍼灸サイエンス学科の光野諒亮助手が「鍼灸臨床におけるHADスケールを用いた不安・抑うつ調査」で、今年3月に大学院を修了した大森祐輝さんが「超音波診断装置を用いた呼吸による腎臓深度の検討【第2報】」で研究発表を行い、多数の参加者と質疑を行いました。



精神保健福祉士実習報告会

保健衛生学部 医療福祉学科長 藤原 芳朗

6月27日(木)第18期生の精神保健福祉士実習の発表会を行いました。精神科病院や精神障がい者の社会復帰施設から8名の実習指導者のご出席をいただきました。これから精神保健福祉士として現場に出ていく学生たちに、温かな励ましの言葉や示唆に富んだアドバイスが学生の心に響いたようでした。

精神保健福祉士実習は、精神科病院で13日間と、精神障がい者の方々急性期の治療を終了後に社会生活や地域生活に戻るための社会復帰福祉施設等で9日間行います。なかには施設に付属する職員寮に泊まり込みで実習をした学生もあり、よい体験となったようでした。

入学時には4年間の学びが続くのか、学外実習しかも精神科病院での実習に耐えられるか、「精神障がい者が怖くて」と言っていたことを思い出し、あれこれと心配していましたが「案ずるより産むが易し」という言葉どおり、どの学生も毅然とした態度で澁刺とした発表をしたことには驚かされました。また、自己覚知をしながら精神障がい者の受診や受療の援助の仕方、社会復帰に向けての求職活動や住居探しに取り組むなど多大な学びがあったと思われました。学内では得られない数々の収穫について発言しており、成長の跡を窺うことができました。あとは2月の国家試験での合格に向けて、一心不乱に取り組んでもらいたいものです。



鈴鹿市発行「介護予防手帳」でのゼミ生による棒体操紹介

保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 山本 泰雄

鈴鹿市が発行している「介護予防手帳：65歳からのフレイル予防のすめ(令和6年度版)」にゼミ生9名(令和5年度卒業生含む)が考案した「フレイル予防棒体操」が掲載されました。昨年度までは、ホンダラグビー部「三重ホンダヒート」によるフレイル体操が掲載されていたのですが、令和4年度に実施した「鈴鹿市学官連携事業：ものづくり体験教室」での棒体操紹介をきっかけに依頼を受けました。自宅で気軽に行えるよう新聞紙を丸めた棒を使用し、①体の側面伸ばし(側屈)、②背中・腕のストレッチ(船漕ぎ)、③肩周りのストレッチ(ハンドル)、④肘の曲げ伸ばし、⑤体幹ストレッチ、⑥ねじりストレッチ、⑦棒またぎ(座った状態)、⑧棒またぎ(立った状態)の計8つの体操を紹介しました。学生が中心となり、鈴鹿市の担当者と打ち合わせを行い、地域住民の暮らしの様子や特性を把握し、授業や実習で学んだ高齢者の特性を交えて検討しました。学生は地域や行政機関と携わる貴重な経験になったと思います。地域高齢者のフレイル予防に貢献できれば嬉しく思います。



奈良県明日香村に古(いにしえ)の心を訪ねて

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 上條 史絵



5月18日(土)臨床心理学専攻 上條ゼミの3・4年生9名で、奈良県高市郡明日香村を訪ねました。飛鳥時代の古墳史跡が多くあり、日本人の古の心を学ぶ外部学習です。古都保存法で景観に配慮されていることもあり、乗り込んだ周遊バス「赤かめ」が村に入ると途端に、日本の原風景と呼べる情景が広がりました。青空の下、遠くまで続く一面の緑と時代感溢れる街並みに、別の時代に入り込んだような感覚になりました。折しも高松塚古墳とキトラ古墳の特別公開期間にあたり、見事に両方の見学に当選して！貴重な壁画修復作業の様子

と、キトラでは西壁白虎と東壁青龍を見ることが出来ました。間近で見た高松塚古墳の壁画は教科書で見た通りで、しかも1300年以上もの間保たれた鮮やかな色彩に、学生たちは感銘を受けていました。幻獣2神の姿は躍動的で、古墳を守ってきた悠久の力を感じました。

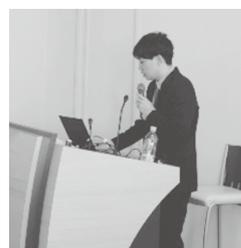
亀石や鬼の俎板など大きな石の建造物に自然に宿るエネルギーを感じ、石舞台古墳では内部に入り、さらに神聖な雰囲気を感じました。事前学習では石を見るというのがイメージしにくい様子のゼミ生たちでしたが、実際に目の前のものが超えてきた歴史に触れて、日本古来の文化を体験しているようだ、と感想を述べていました。

晴天に恵まれた村内をレンタサイクルで駆け巡り、古代米カレーやあすカルビー(苺)のソフトクリームでお腹を満たし、ゼミ生一同心身ともに充実の一日を過ごしました。

2年生が病院システム部門勤務の先輩の講演を聴き、学習意欲を高めました

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 教授 窪田 英明

5月21日(火)医療健康データサイエンス学科2年次必修科目「キャリアデザイン」^{注)}の一環で、大阪府済生会吹田病院情報システム課に勤務の金森哲哉様(医用情報工学科2011年卒業)に講演をしていただきました。学生時代のサークル活動・資格取得・就活、勤務先の業務紹介・業務と資格(医療情報技師・基本情報技術者)の関連などをお話していただき、先輩目線で学生生活と就活のアドバイスをしてくださいました。大変感謝しています。下記は2年生感想レポートの一部で、多くの学生が将来を真剣に考え、学習意欲を高めました。



- 最初、病院での専門用語が分からなかったと仰っていて、私もとても共感しました。今も分からないことが多いですが、頑張っって覚えようと思いました。
- 病院関係の資格だけでなく、統計やデータベースなど、「診療情報管理士 × ○○○○」のように、自分だけの強みにもなることを知り、色々な資格を取得したいと思いました。
- 病院の事務といえば診療報酬の計算や受付対応が主な仕事と思っていたのですが、病院内のシステムを管理・運用する事で他職種の方々が働きやすいようにサポートする仕事もあると知ることができてよかったです。
- 進路を病院にしようか企業にしようか迷っていたので、金森さんの話を聞いて少し基準を作れたような気がしました。

注)「キャリアデザイン」は、本学科の多様な進路志向の学生が早期に将来を見据えて、希望進路に沿った資格取得や科目選択、学生生活を送るきっかけにしてもらうための科目です。自己分析、模擬面接、学科向け求人・進路データ分析、興味ある企業・病院の深堀調査グループワーク・プレゼンなどを実施しています。

学内実習において実技試験を実施

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 松廣 幹雄



放射線技術科学科3年生の学内実習科目「実践臨床画像学実習Ⅰ」において、2日間かけて2回の実技試験を行いました。この試験では冬期から実施される臨床実習にふさわしい技能、医療従事者としての振る舞いを試されます。これまで取り組んだ実習の中から試験当日に各グループに試験テーマが発表されました。その後準備時間が与えられ、グループに分かれた3年生たちは試験までの間復習に励んでいました。

撮影装置を扱う試験となったグループは患者役を学生が務め、接遇から機器の正しい取り扱いやポジショニング、次の窓口への案内といった臨床における画像撮影に関わる一連の流れを放射線技師として遂行し、その様子を各装置担当の先生方が評価し、合否が決まります。皆さん緊張の面持ちで試験を受けていましたが、合格が伝えられると安堵の表情となっていたのが印象的でした。

一日目と二日目、両日ともに合格した学生に話を聞きました。

「一日目は慣れてないこともあり非常に緊張してしまいましたが、二日目は落ち着いて取り組むことができました。臨床実習に向けてまだ不安がありますが、座学と違って実習は進んでいる実感がありました。これからの実習にも頑張って取り組み、技術を習得していきたいです。」

3年生の皆さん臨床実習に向けて学び励んでいてください。

医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)を体験して

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻1年 石田 帆香

私は医療人底力実践Ⅰを体験して、理学療法士になるための必要な知識が身に付きました。理学療法士やリハビリテーションを受けた患者さまからの話を聞く中で、二つ印象に残っていることがあります。

一つ目は、理学療法士が多く場で活躍していることです。私は講義を受ける前、理学療法士はリハビリテーションだけを行う職種だと考えていました。講義を受けていく中で、JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)・青年海外協力隊・アスレティックトレーナー(JSPO-AT)など病院だけでなく災害時やスポーツなど、国内外の多くの分野で理学療法士が活躍していることを学びました。様々な場所で実際に活躍している理学療法士の生の声を聴くことができ、理学療法士についての知識が増えました。さらに将来、理学療法士になり、働く時の選択肢が広がったと感じています。

二つ目は、実際にリハビリを受けた患者さまの声を聴くことができたことです。私は、脳卒中の方と障がい者を子どもに持つ方から話を聞きました。自分が思っていた以上に大変な経験をされていました。両者とも理学療法士にとっても支えられたと仰っていました。実際にリハビリテーションを受けた方から話を聞くことは、とても貴重な機会の良い経験になりました。医療人底力実践Ⅰの講義を通して、理学療法士はリハビリテーションやコミュニケーションを通して人を救うことができる、とても尊い職業だと考えます。これからも理学療法の知識を多く身に付け、一歩ずつ前進していきたいと感じました。



次々再開しはじめた臨床検査学科のイベントー球技大会・BBQ大会ー

保健衛生学部 臨床検査学科 教授 棚橋 伸行

コロナ感染症の拡大により中断されていた臨床検査学科でのイベント、球技大会が5月24日(金)に、昨年度から再開したBBQ大会が5月26日(日)に開催されました。

今年度の球技大会は4年生が急遽開催することを決めたことから、3年生以下の時間調整が難しく4年生のみの参加で、球技としてはバドミントン、バレーボールなどを卒業研究のゼミ対抗で行いました。卒業研究、就職活動及び国家試験の勉強を日々過ごしている合間の息抜きとしての活動であり、特にこれからの国家試験に向けてのゼミ間及び4年生の全体の団結力を高めることができたと思います。

また、BBQ大会は、新1年生との交流を早めに深めるために、昨年より早い5月に1年生から4年生が参加しました。昨年から再開されたことから2年生だけでなく3・4年生も協力し事前準備及び当日運営を遂行し円滑に開催することができました。このようなイベントや大学祭などを通じて、コロナ禍前のように1～4年生全体で開催できるように計画・努力することで各学年の一致団結が進み、臨床検査学科全体の結束力が高まることを期待します。

ラジオ番組「鈴鹿医療科学大学 ヘルシー トーキング！」放送開始

radio³ (レディオキューブ FM三重)の番組「ゲツモク！」内に、本学提供のオリジナルコーナー「鈴鹿医療科学大学 ヘルシー トーキング！」が7月から始まりました。

本学の教員が出演し、月ごとのテーマに沿って、皆さんの身近な健康・医療・福祉についてワンポイントアドバイスをお伝えします。レディオキューブの人気パーソナリティ代田和也さんと共に、役立つ情報を分かりやすく解説していきます。

7月は保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科の宮脇太朗先生が出演し、「鍼灸師はツボの専門家」というテーマで肩こり・腰痛・ストレス対策に効くツボなどについてお届けしました。8月は医療栄養学科の吉村智春先生に「夏バテ予防」についてアドバイスいただきますので、ぜひお聴きください。



番組名	鈴鹿医療科学大学 ヘルシー トーキング! (「ゲツモク！」内)
放送日時	毎週水曜日 18:22~18:27 (5分間コーナー) リアルタイム放送だけでなく、無料スマホアプリ radiko でもお聴きいただけます。
放送局・周波数	FM三重 【津】78.9MHz, 【北勢】85.0MHz, 【名張】85.5MHz, 【志摩】78.1MHz, 【鳥羽】83.2MHz, 【大宮】83.2MHz, 【宮川】84.9MHz, 【尾鷲】80.4MHz, 【輪内】76.8MHz, 【熊野】85.7MHz

＜企画広報課＞

新任職員のご紹介



大学事務局 廣江 知紀

前職では一般企業に勤めており商品の開発・研究・製造などの業務を担当していました。大学事務という未経験の分野ということもあり、毎日新鮮な気持ちで勤務しています。学生の皆様や他の教職員の皆様のお役に立てるよう頑張ります。これからよろしくお願いいたします。



大学事務局 教務課 北川 夢香

これまではリース会社で営業事務・会計事務を担当しておりました。学校事務に携わることは初めてですが、学生さんや教職員の皆様の活動をサポートし、本学の発展に少しでも貢献できるよう精進していきますので何卒よろしくお願いいたします。



大学事務局 教務課 小菅はるか

旅行会社のカウンター業務、塗料メーカーの事務を経て本学に入職いたしました。慣れないことも多いですが、皆さんに助けていただき9か月が経ちました。今後も教務課の一員として精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大学事務局 入学課 川口 聖矢

前職では高等学校の職員として、入学や広報に関わる業務を担当しておりました。これまでの経験を活かし、学生や本学を受験される方々のサポートをしていきたいと思っております。本学のさらなる発展や学生の学びに少しでも貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



大学事務局 学生課 山中 太陽

前職では県内の大学で経理や入試広報の職員として勤務しておりました。本学では学生課の職員として、在学生の皆様に奨学金・保険の手続きなどをサポートさせていただいております。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大学事務局 就職・キャリア支援課 白木 優花

前職は、金融機関の営業店で勤務しておりました。昨年9月より就職・キャリア支援課に配属となり、実習先との契約や実習期間の宿泊先の手配等を担当しています。未経験のことも多くありますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



大学事務局 白子事務部 学生・就職課 早川 将平

前職の自動車部品メーカーでは、静岡で10年間、三重で3年間、事務職として勤務しておりました。大学事務に携わることは初めての経験となりますが、学生の皆さんのサポートはもちろんのこと、本学の発展に貢献できるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大学事務局 白子事務部 学生・就職課 瀨崎帆奈美

白子キャンパスにて主に就職業務を担当しております。私は本学の卒業生で、前職では管理栄養士として勤務しておりました。本学のさらなる発展と学生支援に貢献できるよう尽力したいと考えております。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2024年度 教育支援の会「総会」開催

6月9日(日)千代崎キャンパスにて教育支援の会「総会」を開催しました。本会は在学生の保護者で構成される組織で、学生のクラブ活動や就職対策支援など、学生生活をより充実させることを目的としています。当日は約130人の保護者の方々にご出席いただき、総会では「令和5年度収支決算報告」「令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)」について審議し、全ての事項において承認されました。

総会終了後は学科・専攻に分かれ、「学科別説明会」を実施しました。各学科より教育内容や就職状況について説明が行われ、ご参加いただいた皆さまには関心を強く持っていただけたように感じます。なお、10月6日(日)には、「保護者懇談会」を予定しております。今後とも教育支援の会活動へのご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

＜教育支援の会事務局・学生課＞

教育支援の会 令和5年度収支決算報告書

(自) 令和5年4月1日～(至) 令和6年3月31日

(単位: 円)

収 入	繰越金	前年度繰越金	57,246,212	内 訳	
	会費収入	新入生(4年制)	26,940,000	薬学部以外の10学科	552名分
		新入生(6年制)			22,080,000
		編入生			4,860,000
	利息	利息	100,000	薬学部	81名分
	利息	171	薬3年次2名、3年次1名	100,000	
	合計(A)		84,286,383	定期預金利息	171

(単位: 円)

	令和5年度予算				決算額	予算-決算	
	科目	金額	内 訳	金額			
支 出	学生生活指導費	学友会行事協力費	4,200,000	新入生歓迎会助成	1,000,000	1,000,000	0
				謝恩会助成	3,200,000	3,200,000	0
		課外活動助成費	3,000,000	クラブ・サークル活動助成	3,000,000	3,000,000	0
		大学行事協力費	3,330,000	大学祭助成	3,290,000	3,290,000	0
				大学周辺清掃時飲物代助成	40,000	40,000	0
		学生指導補助費	3,200,000	新入生オリエンテーション	200,000	148,610	51,390
				学生相談室関連補助	3,000,000	3,000,000	0
		学生生活広報費	1,000,000	大学広報費作成補助	1,000,000	1,000,000	0
		実習検査助成費	2,600,000	実習用抗体検査費用助成	2,600,000	2,600,000	0
		施設設備充実費	900,000	設備・備品助成	900,000	893,640	6,360
	小計	18,230,000		18,172,250	57,750		
出	就職対策補助費	就職対策補助	6,700,000	就職指導関連補助	6,700,000	5,062,142	1,637,858
		小計	6,700,000			5,062,142	1,637,858
出	教育研究補助費		600,000	書籍購入補助	600,000	600,000	0
		小計	600,000			600,000	0
出	運営費		2,480,000	総会・学科別懇談会諸費用	700,000	605,901	94,099
				保護者懇談会諸費用	1,600,000	1,542,220	57,780
		小計	2,480,000	役員会諸費用	180,000	137,772	42,228
出	予備費		620,000		620,000	688,681	▲68,681
		小計	620,000			688,681	▲68,681
	予算額計		28,630,000	決算額合計(B)		26,808,966	1,821,034

未払金(令和5年度経費分)※(C) ▲10,000
未戻入金(令和5年度経費分)※(D) 10,000

令和6年度への繰越金 (A)-(B)+(C)+(D) 57,477,417円 (令和6年3月31日預金残高)

教育支援の会 令和6年度収支予算

(自) 令和6年4月1日～(至) 令和7年3月31日

(単位: 円)

収 入	繰越金		57,477,417	内 訳		
	現金繰越金		0	前年度繰越金	57,477,417	
				0	前年度未払金	▲10,000
				0	前年度未戻入金	10,000
	会費収入	新入生(4年制)	27,600,000	薬学部以外の10学科	567名分	
	新入生(6年制)			22,680,000		
	編入生			4,920,000		
利息	利息	130,000	薬2年次1名、5年次1名/2年次2名	130,000		
	合計(A)		85,207,588	定期預金利息	171	

(令和6年4月1日現在) 学生数 2,817名 令和6年度予算額目安 28,170,000円 (学生数×10,000円)

(単位: 円)

	今年度予算				令和5年度実績	備 考	
	科目	金額	内 訳	金額			
支 出	学生生活指導費	学友会行事協力費	4,200,000	新入生歓迎会助成	1,000,000	1,000,000	歓迎会・クラブ紹介・パンフレット等作成
				謝恩会助成	3,200,000	3,200,000	謝恩会
		課外活動助成費	3,000,000	クラブ・サークル活動助成	3,000,000	3,000,000	活動支援
		大学行事協力費	3,330,000	大学祭助成	3,290,000	3,290,000	大学祭助成
				大学周辺清掃助成	40,000	40,000	年2回実施
		学生指導補助費	2,200,000	新入生オリエンテーション助成	200,000	148,610	新入生へのメッセージ冊子配布
				学生相談室関連助成	2,000,000	3,000,000	学生相談室における学生への対応の充実
		学生生活広報費	1,000,000	大学広報費作成助成	1,000,000	1,000,000	広報誌の制作・郵送
		実習検査助成費	2,600,000	実習用抗体検査費用助成	2,600,000	2,600,000	抗体検査助成
		施設設備充実費	900,000	設備・備品助成	900,000	893,640	寄贈備品
	大会・学会参加補助費	800,000	大会・学会参加助成	800,000	0	学生の学会発表・全国レベルの大会出場への参加	
出	就職対策補助費	就職対策補助費	6,700,000	就職指導関連助成	6,700,000	5,062,142	ガイダンス・講座・説明会等の支援
		教育研究補助費	600,000	書籍購入助成	600,000	600,000	学生図書購入助成
出	運営費	運営費	2,580,000	総会・学科別説明会等諸費用	700,000	605,901	総会・学科別説明会等開催(6月11日)
				保護者個別懇談会等諸費用	1,700,000	1,542,220	保護者個別懇談会等開催(10月1日)
				役員会等諸費用	180,000	137,772	役員会等開催(2月4日)
出	予備費	予備費	260,000	予備費用	260,000	688,681	学生への香典・消耗品等、予算項目外の支出に対する対応
			合計	予算額計(B)	28,170,000		26,808,966

次年度繰越予定金額 (A)-(B) 57,037,588円

学校法人鈴鹿医療科学大学 令和5年度決算報告

● 資金収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
学生生徒等納付金収入	4,477,477,500	人件費支出	3,236,387,181
手数料収入	66,999,760	教育研究経費支出	1,524,091,624
寄付金収入	17,590,730	管理経費支出	393,700,070
補助金収入	721,539,269	借入金等利息支出	22,776,452
資産売却収入	964,068,934	借入金等返済支出	235,000,000
付随事業・収益事業収入	503,912,815	施設関係支出	93,354,966
受取利息・配当金収入	159,807,637	設備関係支出	175,742,381
雑収入	152,882,939	資産運用支出	1,306,102,900
借入金等収入	0	その他の支出	294,397,777
前受金収入	773,128,420	資金支出調整勘定	△ 259,761,868
その他の収入	353,716,640	翌年度繰越支払資金	4,029,695,773
資金収入調整勘定	△ 916,584,435	支出の部合計	11,051,487,256
前年度繰越支払資金	3,776,947,047		
収入の部合計	11,051,487,256		

【資金収支計算書・活動区分資金収支計算書の概要】
 資金収支計算書は、会計年度中に行われた資金の動きを表したもので、活動区分資金収支計算書は、その資金の動きを活動区分ごとに集計したものです。
 学生生徒等納付金収入のうち、保健衛生学部救急救命学科（令和4年4月に開設）については、1・2年生の分が計上されています。

● 活動区分資金収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金額
教育活動による資金収支	
教育活動資金収入計	5,921,266,013
教育活動資金支出計	5,154,178,875
差引	767,087,138
調整勘定等	△ 541,121
教育活動資金収支差額	766,546,017
施設整備等活動による資金収支	
施設整備等活動資金収入計	22,714,252
施設整備等活動資金支出計	269,097,347
差引	△ 246,383,095
調整勘定等	1,410,728
施設整備等活動資金収支差額	△ 244,972,367
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	521,573,650
その他の活動による資金収支	
その他の活動資金収入計	1,296,736,362
その他の活動資金支出計	1,563,879,352
差引	△ 267,142,990
調整勘定等	△ 1,681,934
その他の活動資金収支差額	△ 268,824,924
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	252,748,726
前年度繰越支払資金	3,776,947,047
翌年度繰越支払資金	4,029,695,773

● 事業活動収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金額
収入の部	
学生生徒等納付金	4,477,477,500
手数料	66,999,760
寄付金	17,590,730
経常費等補助金	702,402,269
付随事業収入	503,912,815
雑収入	152,882,939
教育活動収入計	5,921,266,013
支出の部	
人件費	3,304,277,247
教育研究経費	2,193,869,072
管理経費	449,537,558
徴収不能額等	0
教育活動支出計	5,947,683,877
教育活動収支差額	△ 26,417,864
収入の部	
受取利息・配当金	159,807,637
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	159,807,637
支出の部	
借入金等利息	22,776,452
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	22,776,452
教育活動収支差額	137,031,185
経常収支差額	110,613,321

科 目	金額
収入の部	
資産売却差額	103,705,520
その他の特別収入	26,906,556
特別収入計	130,612,076
支出の部	
資産処分差額	28,222,845
その他の特別支出	0
特別支出計	28,222,845
特別収支差額	102,389,231
基本金組入前当年度収支差額	213,002,552
基本金組入額合計	△ 34,669,432
当年度収支差額	178,333,120
前年度繰越収支差額	△ 8,532,445,019
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△ 8,354,111,899
(参考)	
事業活動収入計	6,211,685,726
事業活動支出計	5,998,683,174

【事業活動収支計算書の概要】
 事業活動収支計算書は、会計年度中の収支を表すものです。
 当年度の収支は収入超過となりました。収入と支出の増加・減少要因は下記の通りです。
 【収入】 学生生徒等納付金（保健衛生学部救急救命学科（開設2年目）の学納金、令和2年度に行った学納金の改定）、国庫補助金（私立大学等経常費補助金）や附属桜の森病院の収入の増加
 【支出】 教務系システム（A-Portal）の導入に関する支出や屋上・外壁防水工事等の修繕費の増加

● 貸借対照表 令和6年3月31日現在

科 目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	16,845,029,124	17,298,353,077	△ 453,323,953
有形固定資産	16,529,250,177	16,978,797,740	△ 449,547,563
特定資産	300,000,000	300,000,000	0
その他の固定資産	15,778,947	19,555,337	△ 3,776,390
流動資産	5,884,832,508	5,404,129,348	480,703,160
資産の部 合計	22,729,861,632	22,702,482,425	27,379,207
負債の部			
固定負債	2,950,703,249	3,087,813,183	△ 137,109,934
流動負債	1,401,643,914	1,450,157,325	△ 48,513,411
負債の部 合計	4,352,347,163	4,537,970,508	△ 185,623,345
純資産の部			
基本金	26,731,626,368	26,696,956,936	34,669,432
繰越収支差額	△ 8,354,111,899	△ 8,532,445,019	178,333,120
純資産の部 合計	18,377,514,469	18,164,511,917	213,002,552
負債及び純資産の部 合計	22,729,861,632	22,702,482,425	27,379,207

● 財産目録 令和6年3月31日現在

(単位：円)

資産総額	22,729,861,632
基本財産	16,545,029,124
運用財産	6,184,832,508
負債総額	4,352,347,163
正味財産	18,377,514,469

【貸借対照表と財産目録の概要】

貸借対照表は、資産や負債の状況を表すもので、財産目録はその内訳を表すものです。
 当年度は、東洋医学研究所空調工事や、ICT基盤強化工事、売店の無人化工事ほか、各学科の施設改修・備品の新規取得を行いました。また、負債額は、借入金の返済により減少し、正味財産（総資産－総負債）は、2.1億円増加しています。

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー 黒柳 千紗乃

はじめまして。今年度より学生相談室で勤務しています、カウンセラーの黒柳です。まだまだ不慣れなことがありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

新年度が始まったと思っていたのに、気が付けば夏になっていました。今年は6月から猛暑日が何日もあり、この夏はこれ以上暑くなるのだろうかドキドキしています。皆さんは暑さで体調を崩されていないでしょうか。

学生相談室での勤務が決まったとき、ご挨拶をと思い立って鈴鹿市の椿大神社へ参拝に行きました。参道の砂利を踏む感触、境内を流れる水の音、土や植物の香り、参道脇の木々やその奥にあるお社の厳かな雰囲気…、いろいろな刺激を受け、なんだか非日常を味わえる場所でした。

非日常体験や、五感が刺激されることは気分転換になったり、癒しになったり、いろいろな影響を与えてくれます。遠くへの旅行、イベントはもちろんのこと、生活圏内で行ったことのない場所へ行くなども非日常的で刺激的な体験となり、新しい発見や癒しが得られるかもしれません。大きな気分転換、小さな気分転換を上手に使いながら学生生活を楽しんでいただけたらと思います。

学生相談室では、皆さんの気分転換のお手伝いのできたらいいなあと思っています。「誰かとお話したいな」というときもぜひお越しください。



「乱獲したらイカンぜよ」

土用の丑の日が近づくと、テレビでは毎年恒例のように「シラスウナギ(ウナギの稚魚)の漁獲量が減っている」というニュースが流れる。おじさんは鰻が大好きなので、このニュースを聞いた最初の頃は「こりゃ大変だ」と心配したものだった。しかし、毎年毎年同じニュースを聞き、それとは裏腹に土用の丑の日のスーパーやデパートの食品売り場には、これでもかとばかりにたくさんの鰻の蒲焼が並べられているのを見ると、ニュースの信憑性のほうを疑うようになった。ニホンウナギは環境省や国際自然保護連合(IUCN)に絶滅危惧種として指定されているというが、鰻がスーパーや鰻屋から消えたなどという、そんな話はずいぶんシラス。

ウナギの実態は良く分からないが、確実に漁獲量が減り絶滅しそうな魚は増えている。小女子(イカナゴ)漁は伊勢湾の春の風物詩だったが、数年前から全く獲れなくなってしまった。20年くらい前には、3月初旬になると白子漁港で、新鮮な小女子が小さなバケツ1杯500円で買うことが出来た。それが年々少量となり数年前から漁が無くなり、とうとう伊勢湾の小女子は消滅してしまったようだ。漁獲量が多かった瀬戸内海でも最近激減していると言うが、絶滅しないか心配だ。

それ以外にも、秋田名物のハタハタは30年ほど前に数年間全面禁漁した後一時持ち直したが、最近になって再び激減していると言う。静岡駿河湾の桜エ

ビは数年前から激減し出漁期間短縮や自主規制したお陰で少し漁獲量が回復したらしい。ホッケードー(北海道)のホッケもピーク時の1割くらいしか獲れないと言う。函館名産のスルメイカは10年くらい前から激減し、「函館へイカを食べに来ないイカ？」なんて言われてられなくなっちゃった。今では海水温上昇でブリが獲れるようになったというから、キャッチフレーズ変えちゃえば一ツ。「函館で久しぶりにブリ食べよ」なんちゃってね。

日本の漁獲量はどんどん減って、40年前のピーク時に比べて3分の1くらいになっちゃったらしい。漁獲量の減少は気候変動や河水、海水の質的变化などが原因だという説があるが、おじさんはどうも合点がいかない。禁漁して回復するなら、主原因は獲り過ぎしか考えられないよな。

その上、もっと深刻なのは、スルメイカ、ホッケ、サンマ、どれをとっても魚が小さくなってることだ。塩サバの原料なんて、日本産では脂の乗った大きなサバが揃えられないんで、北欧から輸入しているというんだ。日本では漁獲量が減り、成魚になる前の魚まで獲っている可能性もあるんだ。

そうだとしたら、これこそ日本漁業の危機だよな。何とかしなきゃイカンぜよ。おじさん頑張るぞーッ！「魚の乱獲、ハンターイ！」それこそハタハタ迷惑かな？



三重県薬事工業会と連携協力に関する包括協定を締結しました

5月21日(火)三重県薬事工業会と学校法人鈴鹿医療科学大学は、連携協力に関する包括協定を締結し調印式を行いました。

調印式には、三重県薬事工業会より松浦信男会長(万協製薬株式会社)、落合穰副会長(株式会社中部メディカル)、竹内道生副会長(御木本製薬株式会社)、本学より高木純一理事長、豊田長康学長、鈴木宏治社会連携研究センター長、大井一弥薬学部長、西田圭吾薬学科長が出席しました。

三重県薬事工業会は、県内の医薬品製造業、化粧品・医薬部外品製造業及び医療機器製造業の66社で構成されている県内唯一の薬事関連民間団体です。現在、薬事関連のほとんどの県内企業が入会しており、活発な活動を行っています。また、本学は県内唯一の薬学部を設置しており、薬剤師をはじめとするメディカルスタッフの養成や学術研究の推進により、地域の医療・福祉を支える一翼を担っています。

本包括協定は、両者が共通する理念のもと相互に緊密な連携を図り、協働の取組を推進することにより、三重県薬事工業会の会員企業の発展並びに地域活性化と、本学の学術研究及び教育活動の活性化に資することを目的としています。

連携・協力について具体的には、共同研究・受託研究の推進、研究者や技術者の人的交流と人材育成、薬学部の学生に対する早期体験学習やインターンシップ、産学官連携事業の推進などの取組を想定しています。また、薬事工業会の会員企業の社員様が本学で学び直すリスキリングについても検討を進めていきます。

今後、両者の持つ資源を活用し、相互に連携と協力を深め、県民の皆さまの健康・医療・福祉に貢献してまいります。

<企画広報課>

三重県薬事工業会と学校法人鈴鹿医療科学大学との連携協力に関する包括協定調印式



行事予定

2024年8月～11月

- 8月3日(土) 第4回オープンキャンパス
- 5日(月) 夏季休業(～9月4日)
- 9日(金)～18日(日) 夏季一斉休暇
- 22日(木)～23日(金)・26日(月)～28日(水)
前期・夏期追・再試験
- 31日(土) 第5回オープンキャンパス
- 9月5日(木) 後期ガイダンス
- 6日(金) 後期・秋期授業開始
- 16日(月・祝) 月曜授業日
- 21日(土) 総合型選抜(1期)
- 22日(日・祝) 大学院1期入試
- 23日(月・祝) 月曜授業日
- 10月5日(土) 補講日
- 10日(木) 白子：立入禁止 千代崎：通常授業
- 12日(土) 補講日

- 10月14日(月・祝) 月曜授業日
- 17日(木) 避難訓練
- 19日(土) 総合型選抜(2期)・編入学試験第1回
- 25日(金) 秋期定期試験と解説
- 28日(月)～31日(木) 秋期定期試験と解説
- 11月2日(土) 補講日
- 8日(金) 大学祭準備(休講)
- 9日(土)～10日(日) 大学祭
- 11日(月) 大学祭後片付け(休講)
- 13日(水) 補講日
- 14日(木) 学校推薦型選抜(指定校)・総合型選抜(3期)
千代崎：立入禁止(休講) 白子：休講
- 15日(金) 学校推薦型選抜(公募)
千代崎：立入禁止(休講) 白子：休講
- 30日(土) 秋期追・再試験

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。